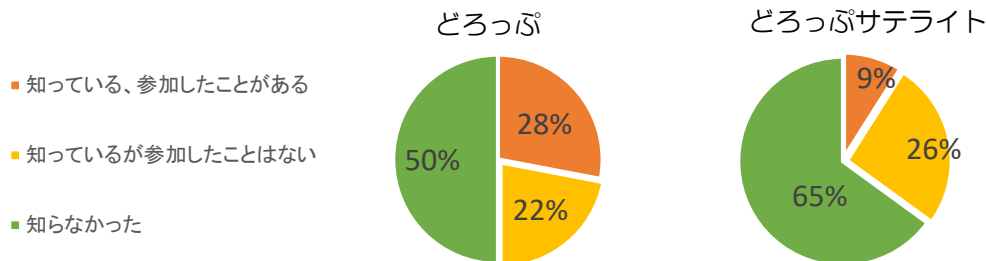


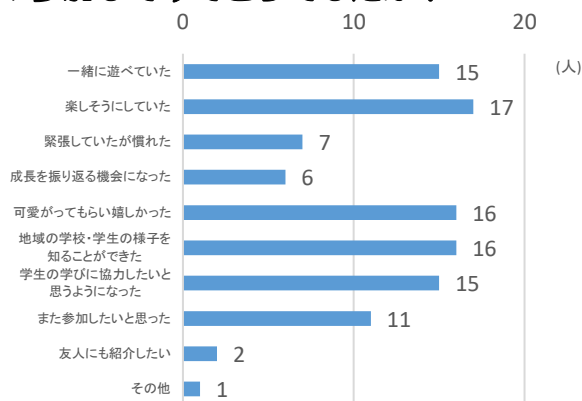
2025年度 港北区地域子育て支援拠点どろっぴ・どろっぴサテライト 利用者アンケート結果

実施期間：2026年1月～2月
回答数：220（どろっぴ大倉山：111 / どろっぴサテライト綱島：109）

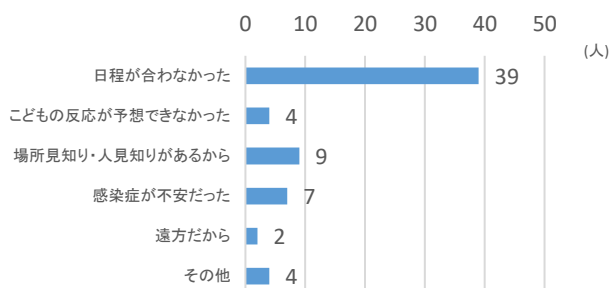
Q：「ふれあい体験授業」を知っていますか？



Q：参加してみてどうでしたか？

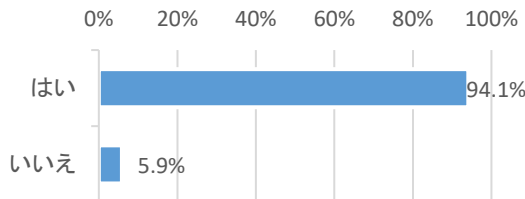


Q：参加しなかった理由があったら教えてください(「知らなかった」を除く)

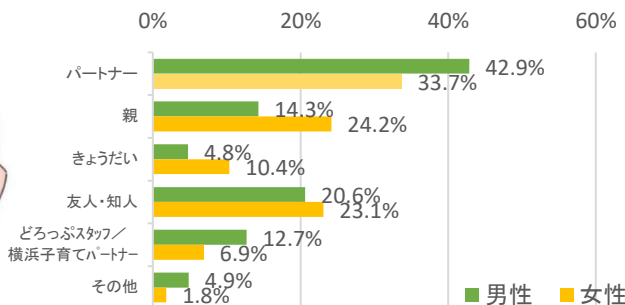


ふれあい体験授業を知っていますか？の回答では「知っている」が昨年より9%わずかに増加しましたが、まだまだ周知に取り組む必要があると感じています。「気軽に楽しめた」「たくさん遊んでもらえた」という声に加え、地域の学校や学生の様子を知り、学生の学びに協力したいと感じたというご意見も多く寄せられています。様々な関わりを通して、こどもが少しずつ他の大人や学生に慣れていく姿は保護者にも貴重な体験となったようです。また「このような活動で学生のうちから赤ちゃんに触れ合うことが少子化対策につながると思う」などの意見もありました。こどもが幅広い世代に可愛がられる喜びや地域につながる機会を大切にしたいと思います。

Q：育児に関して相談相手はいますか？



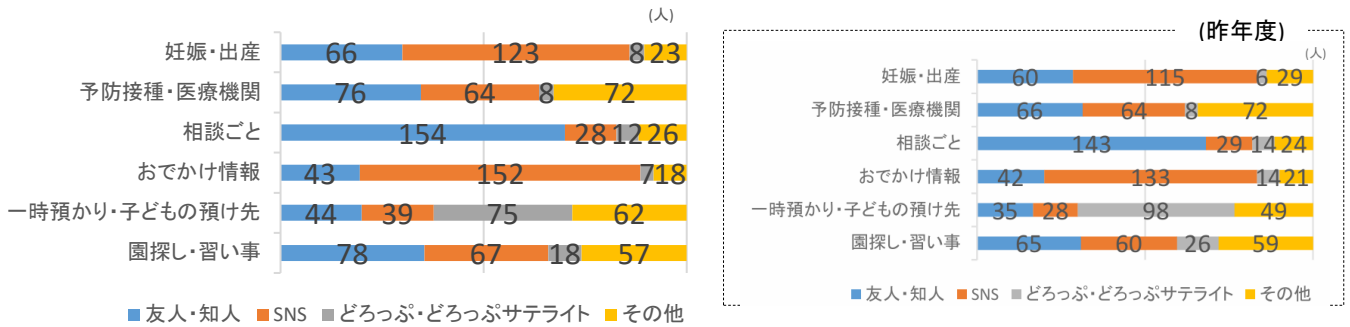
Q：一番よく相談する相手は誰ですか？



相談相手では昨年度と比べ大きな変化が認められた点が2点ありました。

1点目はその他でAIを相談相手に選んだ方が一定数いた事です。これは『産婦人科・小児科オンライン』を含むバマトコ導入の効果などもあり、24時間相手を気にせず自分の悩みや困り事を相談できる利点として考えられます。2点目は男性の『一番よく相談する相手』への回答が、昨年度は「パートナー 78.3%・パートナー以外の人 7.3%」に対し、今年度は「パートナー 42.9%・パートナー以外の人 52.4%」でした。これは一見「男性がパートナーに相談しなくなった？」ともとれますが、父親も育児参加が積極的になり子育てに対する意識が高まった結果、幅広い相談相手を求めているという事ではないかと推察しました。

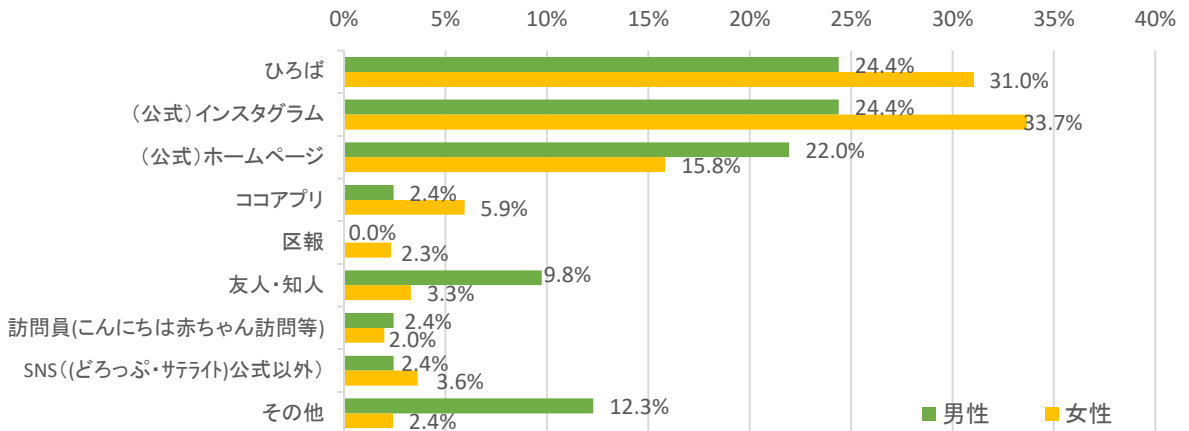
Q；子育て情報を得るとき、もっとも利用している方法を教えてください。



昨年度と比較して「友人・知人」と「SNS」の数が伸びていることが読み取れます。特におでかけ情報ではSNSから得ている方が増えてきました。一方で相談ごとは友人・知人を選ぶ方が多く、習い事や預け先はSNSと友人・知人、両方で増えています。情報の収集はSNSを頼り、信頼できるだれかの実体験や価値観を求めるときは友人・知人と使い分けをしているようです。

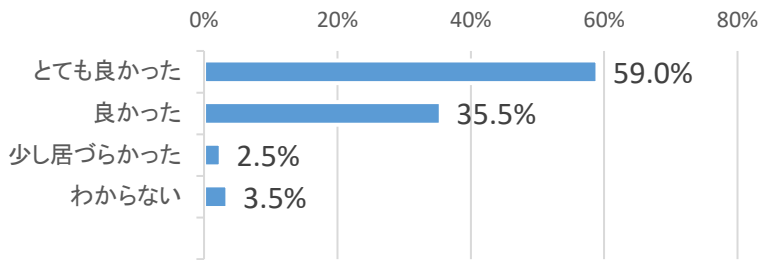


Q；どろっぷのプログラム等の情報をどこから得ていますか？



昨年度と比べ男性の『友人・知人からプログラム情報を得る』割合が1.6倍に増えました。横のつながりを持つ男性が増えていることが分かります。男性は訪問員から情報を得たというのも昨年度には見られなかったものです。女性は昨年度と比べ大きな変化は見られませんでした。全体として男女間での情報収集の差は埋まってきている傾向にあります。

Q：どろっぴの居心地はいかがですか？



誰かと話をしたい時でも1人でも来やすい

自由に過ごして良い雰囲気
居心地がよいです

父親は慣れるまでに時間が掛かる
気がする

父親だけで行ってもいい
雰囲気がある

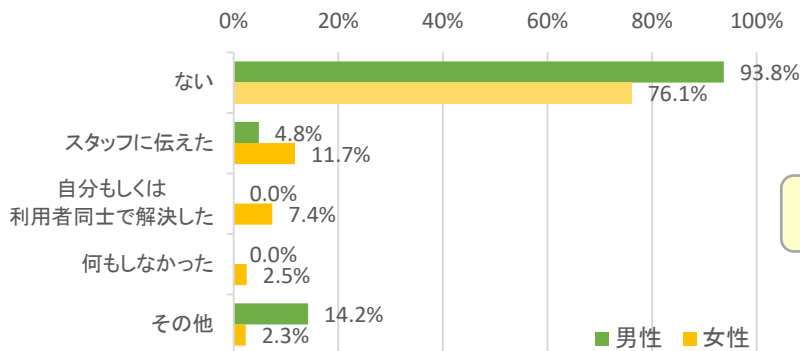
短い時間でもどろっぴにお邪魔して他のお母さんと話すだけで元気になるます

ママ友グループの集まり会みたいなのをやっているときは居づらいつと感じた

人が多くて座る場所に困る事がある

Q：どろっぴにいる時に

困ったことはありますか？



最初に来た時どう過ごして良いか困った

親が見てない子どもがいて他の子どもにぶつかり危険があった

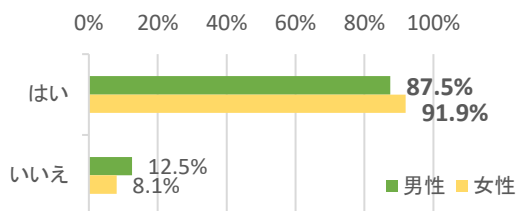
周りの利用者の方がよく助けてくださる

姉弟で遊び場所が違う時

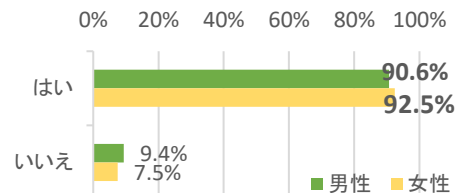
子どもが帰りたくなくてぐずった時

Q：どろっぴで周りにいる人が困っていたら

「手伝おうか」と声をかけられますか？

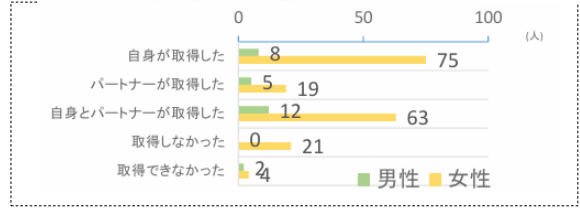
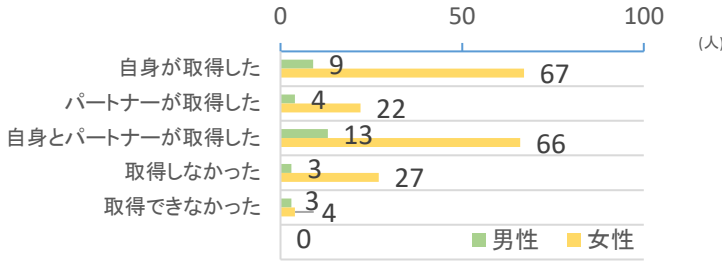


Q：どろっぴにいる時、「手を貸してほしい」と周りの方にお願いできますか？



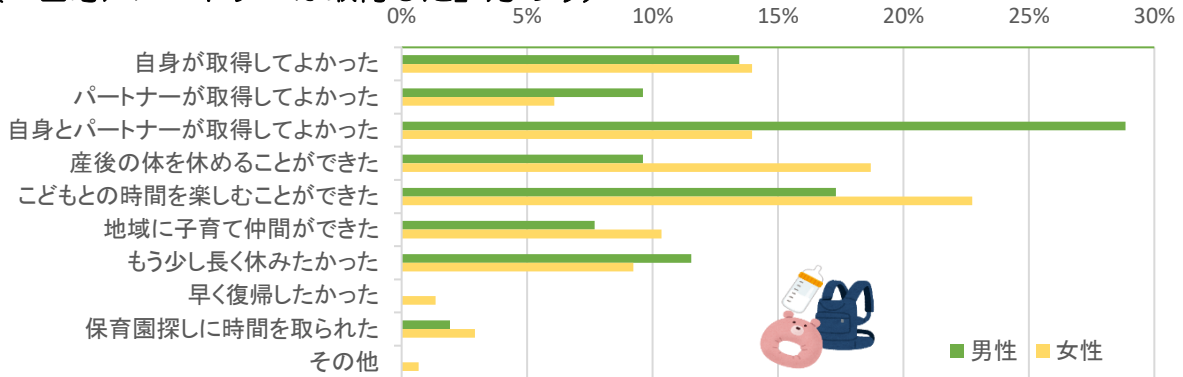
一人でいても、スタッフと話しても、誰かと話しても良いなど、自由に過ごせる雰囲気があると思っている方が多いようです。私たちは「何もしない」も楽しめる場所であってほしいと思っています。皆さんが自然体の自分を出せるような場でありたいです。その中で友人同士（と見える）輪ができていて居づらさを感じる方や、人見知りで周りの人と話せない、という方もいます。輪に後から入ろうとすると気おくれしてしまうこともありますよね。もし入りづらいなと感じるときはいつでもスタッフやサポーター、ボランティアに声をかけてください。一緒に手遊びしたりお話をしながら過ごしましょう。そうして顔なじみが増えていけば「手伝おうか」「手を貸してほしい」の言葉も今以上に発しやすくなり、みんなが自然体でいられる場となるのではないのでしょうか。

Q；育児休業（休暇）を取りましたか？



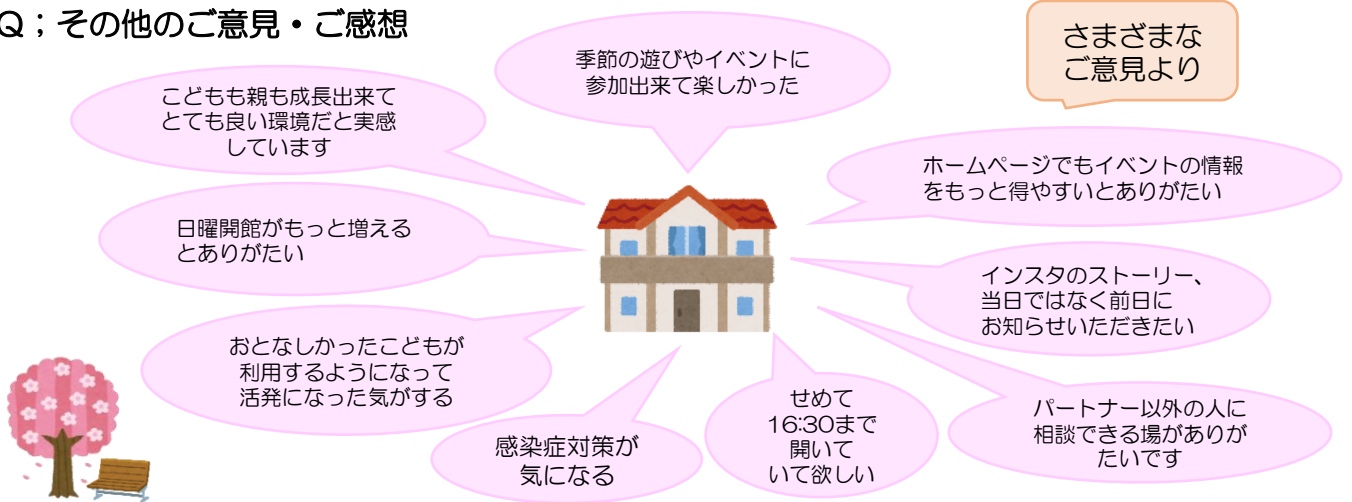
Q；育児休業（休暇）を取得してどのように感じましたか？

（「自身／パートナーが取得した」方のみ）



男性では「こどもとの時間を楽しめた」が5%減少した一方で、「地域に子育て仲間ができた」が4%増加しており、育休中の視線が家庭内だけでなく地域や横のつながりへ広がりつつあるようです。女性では「自身が取得して良かった」が約5%減少しつつも「もっと長く休みたかった」という声は増えており、育休の満足度の背景には時間的余裕の不足も影響していると考えられます。また「保育園探しに時間を取られた」という声が増えた点から、育休中にも関わらず実務的な負担が大きい様子もうかがえます。全体として育休取得の満足度は大きく変わらないものの、その内訳には変化が見られたようです。

Q；その他のご意見・ご感想



たくさんのご意見とご感想を寄せて頂きありがとうございました。お子さんの成長を感じられたり、相談場所としてお役に立っていることを大変嬉しく感じています。日曜開館や開館時間の延長、ホームページやSNSでの情報発信についての要望や感染症対策へのご意見は今後の運営の改善策として参考にしたいと思います。どろっぶでは一人ひとりの声を大切に、こどもをまんやかに安心して育ち合える場でありたいと考えています。これからもあなたと共に過ごせる居場所として利用しやすい環境づくりに努めていきたいと思ひます。

皆さんの貴重なご意見は、スタッフ、港北区役所、関係機関、そして利用者の皆さんと一緒に、今後の運営に活かしていけるよう参考とさせていただきます。